

令和5年11月6日
(2023年)

保護者のみなさまへ

吹田市立佐井寺小学校
校長 勝田 宣孝

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

- ・国語は全国値を3%、大阪府を2%下回る結果となった。

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

《話すこと・聞くこと》

- ・全国値をやや下回っている。
- ・「目的や意図に応じ、話の内容を捉え話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる」については全国値を下回り、課題がある。

《書くこと》

- ・全国値とあまり変わらない。
- ・「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」については、全国値とあまり変わらないが、無回答率は全国値よりも低い。

《読むこと》

- ・全国値とほぼ同じである。
- ・「目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約することができる」については大阪府の平均値とほぼ変わらない。

《伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項》

・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる」については全国値を上回っているものもある。

●国語科における成果と今後の改善点について

◇漢字の定着は日々の漢字学習の成果が出ている。

◇記述量は少ないが短い文章の中で条件を満たして書かなければならないという問題でつまづいた（条件を満たさない又は無回答）児童が多かった。このようなことから、目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えを限られた文字数でまとめることができるように、書く練習を行っていく必要がある。

◇図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるように、国語に限らず算数、理科、社会においても、図表やグラフをもとに分かることや自分の考えを書く活動を取り入れる必要がある。

◇無回答率が多かったのは、設問2から最後の問題にかけてであることから、時間配分が上手くいかなかったことが原因ではないかと考えた。このことから、普段のテストの際に解ける問題から選んで解くことや分からない問題は飛ばして後で考えるなど、テストの解き方も教えていく必要がある。

●算数《概要》

◎算数はおおむね全国値と並ぶ成績であった。

●算数《各領域における成果と課題》

《数と計算》

- ・（ ）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連づけて読み取ることができている。
- ・「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることが、おおむねできている。
- ・一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができている。

《変化と関係》

- ・伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、数を求めることができています。
- ・伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数をえらぶことができています。

《図形》

- ・正方形の意味や性質について理解することができている。
- ・台形の意味や性質についておおむね全国値と並ぶ成績であった。

《データの活用》

- ・二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができている。
- ・「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることが、おおむねできている。

●算数科における成果と今後の改善点について

◇平均正答率は全国と大阪の平均とおおむね同じ結果であった。日々の学習の成果が、ある程度得られている。

◇計算によって答えを出したり、図形の名称を答える短答式の設問で正解を選んだりすることや、伴って変わる2つの量について答える設問については、おおむね全国値を上回ることができた。

◇図形領域において、正答率が著しく低かった。作図をしたり、図形をつくったりする活動を通して、直線の平行や垂直の関係と、図形を構成する要素などを関連付けて、図形の性質や図形の面積について考察できるようにすることが大切であると考えられる。

◇問題の意図を理解できていないことから、誤答しているケースが多く見られた。問題を正しく理解するために、問題を読んで自分で大事なところに線をひいたり、問題を読んで、絵や図で表したりする経験を低学年から習慣づけていく必要がある。

◇記述問題において正答率の低さや、無回答がみられた。言葉と数を用いて記述をしたり、理由として取り上げるべき事柄が複数ある場合に、それらを全て取り上げて記述したりすることに課題があると考えられる。普段の授業の中で「理由」を記述する際には、「AだからBとなる」のように、理由及び結論を明確にして記述することや、理由として取り上げるべき事柄が複数ある場合には、それらを全て取り上げて記述する経験を積み重ねていく必要がある。

記述問題が全国値を下回っている。正答となるために必要な条件のうち、1つが欠けてしまい誤答となっていることが多く見られた。この結果から、引き続き、文章を理解すること、書くことを大事にし、問いに対して自分の考えを持ち、しっかり考えを表現する力をつけていく必要がある。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に対する調査です。「当てはまる」「どちらかと言えはあてはまる」と回答した合計を肯定的回答として分析しています。

【自分自身に関するについて】

- ・「自分にはよいところがある」「先生はよいところを認めてくれる」と考える児童は、全国平均よりも上回っている。
- ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という項目で、9割近くはそう思うと答えているが、全国平均を若干下回っている。
- ・「困りごとがあるときにいつでも相談できるか」という項目も、全国平均を下回っている。

【学習環境・生活環境について】

- ・同じくらいの時間に寝て、同じくらいの時間に起きることができていない子が増加傾向にあるの

で、基本的な生活のリズムを作っていけるようにする必要がある。

・家庭での学習については、全国平均と大きく変わらないものの、若干下回るものが多い。

「計画を立てて勉強していますか」の項目が全国平均よりも低く、昨年度と比べても下がっている。

家でも学習する習慣をつけ、自分で意図をもってやり遂げる力をつけていく必要がある。

・「30分以上読書をする」「読書は好きですか」の項目が全国平均よりも低く、昨年度と比べても大きく下回っている。

・ICTの質問でも、昨年度同様、全国、大阪の平均値を大きく上回り、本校ではGIGA端末の使用が浸透し、学習に有効に活用されていることがわかる。

【教科・学習について】

・全体的に学習に関しては、学んだことを生かそうという気持ちが低い。

・国語の内容はよく理解し、将来役立つと考えていると思っている子は全国平均とほぼ同じくらいだが、立場や考えの違いやどのような表現で描かれているのかに着目することは全国平均より低い。

・算数の授業に対する姿勢は全国とほぼ同じであるが、内容をよく理解していると思っている子は全国平均より少ない。

・英語に対する苦手意識があり、英語を積極的に学ぼうという意識が全国と比べて低い。

3 今後の取り組み

《学校では》

◎自己肯定感が高く、子どもの活躍する場面が増え、その成果を認められる経験が自信につながっていると考えられる。

◎困ったこと、不安なことがあるとき、大人に相談するよりも、自分たちだけで解決しようという気持ちが強く閉鎖的になってしまうので、その気持ちを大切にしつつ、相談していろいろな考えに触れ、解決する方法も有効だということもを学ばせて、風通し良くしていく必要がある。

◎地域との関わりについては、年々上昇傾向にあり、コロナも収まり、地域の活動も増えたことも影響していると考えられる。

◎ICTについては、全国的に見ても進んで、授業の中で有効に活用されている。いっぽうで、読書については減少傾向にあり、活字離れが懸念されるため、読書推進に取り組む必要がある。

◎自分の学びに自信がなく、学んだことを生かしていないわけではないが、本人たちの実感としてつながっていない。学習したことに自信をもち、それを積み上げていくために、個々の考えを大切に、認める活動を今後も継続的に取り入れ、学習においても自己肯定感を高めていく必要がある。

◎英語に対しての意欲が低いので、将来どれだけ必要な力かを伝え、英語への興味、関心を高めることで、英語を学ぶ意欲が高まるのでは、と考える。

☆一昨年度より「主体的に学びに向かい、思考力を高める」ことをテーマに、国語の授業研究に取り組んでいます。まだ結果には結びついていませんが、粘り強く取り組み国語の勉強が好きになる児童を増やしていきます。国語にとどまることなく他教科においても、日々の授業で思考力を発揮する授業づくりを進めていきます。これからも全教職員が自己研鑽に一層励み研究授業・研究協議を通じて学

校全体の授業力向上を図っていきます。

☆これまで学校生活や学校行事などあらゆる教育活動を通じて、児童の自主性を伸ばすこと、児童を称賛することに取り組んできました。今年の調査で「自分に良いところがある」と考える児童が大幅に増えました。コロナウイルスで失われた時間や機会を取り戻すべく、児童一人ひとりが達成感や充実感を味わい、自分自身に自信を持って自己肯定感を高めていけるよう取り組んできた成果といえます。

☆学習面における自主性を引き出す一つとして、自主勉強ノート「学ちゃん」に取り組んでいます。

一昨年度より配布した1人1台端末を活用して、児童が自ら学ぼうとする姿勢を育てていけるよう取り組んでいます。本校ではGIGA端末の仕様が浸透し、学校生活でも有効に活用されるようになってきました。

《家庭では》

☆学校生活を支える大きな力の一つに「早寝・早起き・朝ごはん」に代表される生活習慣があります。

朝ごはんを食べている児童が95%以上になったことは、ご家庭のしっかりとした支えの賜物です。

引き続き、ご協力のほどよろしくお願いします。

☆家庭学習については、「家庭学習の手引き」を活用していただき、家庭の方での習慣づけをお願いします。

☆本校は地域行事も盛んな学校です。コロナ禍も落ち着き、色々な行事も復活してきています。子どもが地域行事に参加するよう働きかけをお願いします。

☆これまで様々な場面でかけていただいている家庭での称賛や励ましの声かけが、子どもの活動の源となっています。自己肯定感を更に高めていく上でも、より一層のご協力をお願いいたします。